

第 627 回：【1~3 年生向け】レポートで何を書くか考えるための方法 3 選 (MS)

みなさんこんにちは。水曜日担当の MS です。今回の LA 通信では、学期末レポートや卒業論文で、何について書くかを考える際のおすすめの方法についてお話しいたします。

出題者から指定されていない場合、何についてレポート等を書くかは学生側が考える必要があります。私の場合、1 年生のころは何について書くかということが頭の中に浮かんでくるといことがほとんどありませんでした。それに対して自分がどのように試行錯誤してきたのかを、具体例を交えて紹介できればと思います。ここから紹介することは「これをすれば絶対に書きたいことが見つかる」という保証はできませんので、あくまで経験則的な目安としてとらえていただければと思います。

一つ目は、授業で与えられた教科書やテキストがある場合、それを注意深く読んでみて、気になったところがないかを確認するという方法です。私の場合、学部の英語史の授業で教科書の記述を検証したことがあります。というのも、その教科書は誤植が多いと教員から知らされていたので、私はどうしてもその教科書の記述が信頼できなかったのです。そこで、気になった箇所を検証してみたところ、記述が誤植でかつ誤りであったことを示す結果を得ることができました。書き物を批判的に読むという訓練にもなるうえ、教科書の内容理解も深まるかと思います。

二つ目は、自分の関心のあることと結びつけてみる方法です。自分の趣味や、最近ハマっているものなどがこれに該当します。特に、扱うデータに制約がないレポートの課題等が出された場合は、これがおすすめです。無

論、授業で学んだことや授業が扱っていることに最低限触れておく必要はありますが、何よりも自分の好きなデータを使ってレポートを書くことはやる気を維持することにもつながります。そのうえ、自分がよく知っていることを扱うため、書くことも苦ではないかもしれません。常日頃、自分の気になることに近づけて書けないか考えてみる習慣をつけてみるといいでしょう。

三つ目は、インターネットを活用することです。特におすすめなのが、授業で取り上げられていたことについて、YouTube や Ted Talks といった媒体でいくつか動画を視聴することです。特に後者は教育的な側面がある動画が多く、英語の勉強にもなるかと思います。この方法は、人間はそもそも気にしていないものはほとんど目に入ってこないが、名前が与えられたりしてその存在を認知したものは、目に入ってくるという経験則（一般に言われている “Joshua Tree Principles”）に依拠しています。利点としては、自分が興味を持っていることを積極的に増やす、言い換えると比喩的な「引き出し」を増やすということにつながるものがあげられます。動画内で言われていたことに注目して再度教科書を読んでみると、これまでは気になっていなかったことが、気になっているかもしれません。気になることを増やして、それについて深掘りすることでレポートのネタを探すという方法といえます。

以上が今回の LA 通信でした。みなさんのレポート等執筆の参考になれば幸いです。それでは。